

## 分類名 [病害虫]

# 6 露地ギク主要病害虫の発消長

農業センター

### 1) 取り上げた理由

露地栽培のギクに発生する病害虫の防除を適期にかつ経済的に実施するため、主要病害虫の発生実態について調査を進めてきた中で、コアオメクラガメの吸汁害発生については「普及に移す技術」第71号で参考資料として紹介した。今回、主要な病害虫の発消長が明らかとなったので、参考資料とする。

### 2) 参考資料

(1) 白さび病：通常、初発は6月上旬に認められ、7月に入り病勢が進展し、盛夏期には高温のため病勢は停滞する。低温年には多発生することが多く、7月以降の病勢の進展は急激である。発病は下位葉に始まり、上位葉から中位葉にかけて多くなる(図-1)。

(2) 黒さび病：7、8月咲きのギクでは6月下旬から7月にかけて初発が認められ、7月中旬以降病勢が進展する。9月咲きの場合には8月下旬に初発が認められ、9月以降気温の低下に伴い病勢は急進展する。発病部位は白さび病と同様である(図-2)。

(3) 黒斑病と褐斑病：本病害は併発することが多く、発消長もほぼ同様である。初発は6月下旬から、7月にかけて認められる。その後の病勢進展は緩慢であるが、8月に入り、急進展することがある。発病は中位葉から下位葉にかけて多い(図-3)。

(4) ワタアブラムシ：無翅虫の初発は5月下旬に認められ、6月中旬に発生盛期になる。その後、7月には密度が低下がするが、8月に入ると再び密度が高まる。寄生は未展開葉・上位葉に多く、中位葉にも認められる(図-4)。

(5) アザミウマ類：初発は5月下旬、発生盛期は6月中旬である。盛夏期以降、低密度に推移するのが一般的であるが、8月に再び密度が高まることがある。寄生は未展開葉・上位葉に多い(図-5)。

(6) コアオメクラガメ：成虫の発生盛期は、越冬世代が6月中旬から下旬、第1世代が8月上旬に認められ、第1世代幼虫発生盛期は7月下旬に認められた。寄生は未展開葉・上位葉に多く、中位葉にも認められる(図-6)。

### 3) 対象地域等

県下一円

### 4) 特に留意すべき事項

#### (1) 利用上の留意点

発消長には年次変動がある。

### 5) 背景となった主要な試験研究

(1) 研究機関及び担当部科名 農業センター作物保護部・病害虫発生予察科

(2) 研究課題名及び研究期間 花き類病害虫発生予察実験事業 平成3～9年

(3) 参考データ

(4) 発表論文等

北日本病害虫研究会報 第44号 (1993)

北日本病害虫研究会報 第45号 (1994)